

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人東京都歴史文化財団	
施 設 名	東京芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	26,654	(千円)
	公 演 事 業	18,492 (千円)
	人 材 養 成 事 業	8,162 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇	2023年8月25日	指揮：挾間美帆 出演：東京フィルハーモニー交響楽団、BIGYUKI、Awich 他	目標値	1,533
		東京芸術劇場コンサートホール（大ホール）		実績値	1,494
2	東京芸術劇場マエストロシリーズ井上道義&読売日本交響楽団	2023年11月18日	指揮：井上道義、 出演：高橋絵理、林真暎、新国立劇場合唱団、読売日本交響楽団	目標値	1,611
		東京芸術劇場コンサートホール（大ホール）		実績値	1,864
3	コンサートオペラシリーズ vol.9 喜歌劇「美しきエレヌ」	2024年2月17日	指揮：辻博之 出演：砂川涼子、工藤和真、濱松孝行、晴雅彦、藤木大地、伊藤貴之他	目標値	1,076
		東京芸術劇場コンサートホール（大ホール）		実績値	956
4	0才から聴こう!!&4才から聴こう!!春休みオーケストラコンサート	2024年3月20日	指揮：太田 弦 ナビゲーター、うた：小川真奈 管弦楽：読売日本交響楽団	目標値	2,400
		東京芸術劇場コンサートホール（大ホール）		実績値	3,243
5	謝珠栄演出「天翔ける風に」	2023年9月29日から 10月9日まで	出演：珠城りょう、屋良朝幸、今拓哉、東山義久、原嘉孝、加藤梨里香、駒田一、剣幸、加藤翔多郎 他	目標値	8,790
		東京芸術劇場 プレイハウス		実績値	8,820
6	東京演劇道場ワーク・イン・プログレス Dojo WIP	2023年11月22日から 11月26日まで	出演：安東信助、石村みか、石山蓮華、大重わたる、大野明香音、緒形敦、小幡貴史、葛たか喜代 他	目標値	1,260
		東京芸術劇場 シアターイースト		実績値	1,008

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	芸劇 dance ワークショップ	WS: 11月9日・16日 19日、11月28日~12 月17日 他	講師: 中村蓉、浅野ひかり 他 参加者: 秋山舜稀、内田颯太、川島 信義、佐藤正宗、中野亜美 他	目標値	510
		東京芸術劇場 リハーサルルーム シアターイースト		実績値	396
2	音楽大学フェスティバル・ オーケストラ	2024年3月30日	指揮: シルヴァン・カンブルラン 合唱: 音楽大学フェスティバル・コー ラス	目標値	1,400
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	1,461
3	芸劇オーケストラ・アカ デミー・フォー・ウイン ド	2023年4月1日から 2024年3月31日まで	スタッフ: 福川伸陽(東京音楽大学 准教授)、斎藤和志(東京フィルハー モニー交響楽団首席奏者) 他	目標値	在籍 22
		東京芸術劇場 シンフ ォニスぺース、リハ ーサルルーム 他		実績値	在籍 21
4	東京演劇道場	通年	講師: 野田秀樹、ティモフェイ・ク リャービン、太陽劇団俳優 他	目標値	800
		東京芸術劇場 リハー サルルーム、水天宮ピ ット、花伝舎 他		実績値	358

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>当館の4つのミッションである「芸術文化の創造・発信拠点」「人材育成の拠点」「教育普及の拠点」「賑わいの拠点」を果たすべく、芸術文化を通じて「地域」と「世界」を交流させ、芸術文化の次世代を育むハブ拠点を目指す事業を策定・実行した。</p> <p>【公1】は、世界で注目を集める日本のジャズ作編曲家をプロデューサーに起用。シンフォニック・ジャズに特化。新たな観客層を開拓した。【公2】は、指揮者井上道義と読売日本交響楽団のマーラーシリーズ集大成として合唱付の大規模作品「復活」を上演。病気休演となったアルトに代わって期待の若手ソリストを抜擢。音楽的にも高い評価を得た。【公3】「美しきエレヌ」をプロの演奏団体として日本初演し光を当てた。演出も加え声優をナビゲーターに作品理解の一助とした。【公4】乳幼児から参加できる公演を実施。地域の文化拠点の役割を果たした。【公5】では兵庫や豊橋の公共劇場と連携して公演を実施。台湾の国立劇場の芸術監督が観劇し招聘を申し出るなど国際的な発信もでき、芸術文化の創造発信拠点というミッションを果たした。【公6】は、当初予定の既存の作品の上演から、道場生自身の発案による企画をショーケース上演する形式に変更し、人材育成というミッションにより深く取り組むことができた。世界3位の乗降客数の駅に隣接し、通行人が館内を歩きかう場所柄を生かし、演劇道場生公演はパブリックスペースであるロワー広場でのパフォーマンスを取り込むなど、地域の賑わいの拠点としての劇場の存在を示した。</p> <p>【人1】では美術家やソーシャルワーカーなど普段劇場に縁がない人もWSと公演に参加。【人2】は、首都圏の音楽大学と連携し、初めて合唱付き作品に取組み、合同オーケスト・合同コーラスを編成。ライブラリアン等公演制作の人材育成の実践も図った。【人3】は、充実した講師陣により、レッスン・ゼミ・コンサートの3点を軸に、若手音楽家の人材育成を年間通じて実践した。</p> <p>公演事業と人材養成事業が相互に補完して実施できるよう組み立てることで、4つのビジョンをバランスよく実現した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>《文化的意義》音楽事業【公1～3】では、世界を代表する音楽家たちによるジャズとクラシックの融合、質の高い大規模作品、演奏機会のない作品の上演により、芸術水準の向上に貢献。演劇事業【公5】等、良質でエンターテインメント性の高い作品の上演により、地域の「文化都市」としての環境創出に継続的に貢献した。</p> <p>《社会的意義》【公4】では、地域住民が家族で気軽に来場できる拠点の役割を果たした。【人2】では、コロナ渦で激減していた音大生の相互交流を復活させた。【公6】は年齢、ジェンダー、国籍など多彩な道場生メンバーがそれぞれの問題意識を反映した作品を創作し、【人1】はフェミニズム的な文脈から参加者が作品にアプローチする方向を示した。助成金の支援により、多様な価値観を反映するこういった取り組みが継続でき、劇場が同時代の社会に果たす役割を発信できた。【人4】の演劇道場生はメンバーが、当館が実施する劇場ツアー（対象事業外）に数年にわたりツアーガイドとして加わるなど地域のネットワーク形成に貢献した。</p> <p>《経済的意義》【公5】等の大動員型の事業実施の際に、館内や近隣の飲食店が作品に関連した特別メニューを提供、近隣ホテルもツアーパックを組むなどして、来館した顧客の消費活動が地域の商業を活性化させている。目標入場者数を上回る公演も多く、地域の拠点である劇場に人が集まることで池袋の周辺地域の消費活動及び地域活性化に貢献した。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

目標 1. 指標 1 【演劇事業】情報発信 1 事業 5 媒体以上、公演関連記事 1 事業 10 件以上の掲出

【音楽事業】情報発信 1 事業 4 媒体以上、公演関連記事 1 事業 2 件以上の掲出

実績 【公 1】4 媒体、10 件 【公 2】5 媒体、5 件 【公 3】8 媒体、6 件 【公 4】5 媒体、13 件 【公 5】67 媒体、76 件（達成） 【公 6】2 媒体、2 件（未達成）

目標 2. 指標 1 【演劇事業】25 歳以下、65 歳以上の観客動員 5%以上 実績 【公 5】32% 【公 6】16%（達成）

【音楽事業】高校生等への割引チケット販売枚数 1 公演 20 枚以上

実績 【公 1】12 枚 【公 2】6 枚 【公 3】1 枚 【公 4】0 枚（未達成）

目標 3. 指標 1 【公 4】初めての来場者の割合 40%以上 実績 13%（未達成）

目標 4. 指標 1 【公 6】1 事業 1 公演以上、鑑賞サポート 5 組 10 名以上

実績 1 事業 1 公演（未達成）…上演形態や内容の変更により、聴覚障害の方へのヒアリンググループのみ実施。

公演事業においては、目標 1 は、一部演目を実験的なものに変更したために、その内容を十分に伝えることができず未達となったが、他は達成することができ、クリエイティブな作品上演を行い、かつ、その内容を広く伝えることに成功した。わが国を代表する創造発信型劇場音楽堂としての役割を果たすことができた。目標 2、3 では、演劇事業では幅広い観客動員に成功したが、音楽事業の若年層や新しい客層への取組には課題が残った。目標 4 の若手公演にも鑑賞サポートを導入しようと試みたが、演目内容から視覚障害の方への取組が実施できず課題が残った。これら課題については、今後、取り組んでいきたい。

人材養成事業

目標 1. 指標 1 【人 1】20 代の参加率 60%以上 実績 52.6%（未達成）

目標 1. 指標 2 【人 3】プロへの輩出 1 名以上 実績 1 人（達成）

目標 1. 指標 3 【人 4】演劇道場からプロデュース公演への出演 10 人 実績 50 人（達成）…道場メンバーが信用銘柄となり、講師による抜擢、芸劇自主事業他プロデュース公演のオーディションでも注目された。

目標 1. 指標 4 【人 2】記事掲載 3 回以上 実績 4 回（達成）

目標 2. 指標 1（変更後）【人 1】参加者（10 名程度を想定）のアンケート満足度 80%以上 実績 100%（達成）

目標 3. 指標 1 【人 3】ウインド生による外部演奏 10 公演以上 実績 39 回（達成）

目標 3. 指標 1 参加者のアンケート 満足度 70%以上

実績 【人 2】87.4% 【人 3】94% 【人 4】90%（達成）

人材養成事業においては、目標 1 がわずかに未達となったが、それ以外はすべて達成、若手演劇人、若手音楽家の育成は一定の成果を出してきている。目標 1 については、ヴァージニア・ウルフの「オーランドー」を題材に女性の生き方を深く掘り下げる内容となったため、設定していたターゲットよりも人生経験の豊かな 30 代以上の参加が多いという結果となったため未達となった。申請段階で計画をより精査して目標設定を行っていきたい。

以上のことから、この助成事業において、若手アーティストの育成、若い才能による創作活動を推進し、新しい作品の上演、そして、それを広く発信していくことで、東京芸術劇場が目指す「芸術文化の次世代を育むハブ拠点」への道を一定程度達成することができたと考える。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公1】は人気ソリスト起用を決めるまでに時間がかかったが、券売に好影響をもたらした。【公2】マエストロの出演が危ぶまれる場面があったが、関係者タッグを組み成功に導いた。【公3】演出を工夫したために制作には時間がかかる点もあったが、好評を博した。【公4】例年、4才の券売に苦戦していたが、制作者が丁寧に発信広報を行いほぼ満席とすることができた。【公5】は数日間の調整はあったがほぼ予定通りに実施した。【公6】は、当初予定していた形態から大幅に内容を変更したため、事前打ち合わせ・稽古・舞台稽古などに費やす日数が増え、公演期間を短くした。実験的な内容でもあったため、公演回数を当初予定の9回から5回に大幅に減らして興行リスクを回避した。【人1】は当初5ヶ月にわたる断続的なワークショップ期間を見込んでいたが、オーディションでメンバーを選抜した後に集中して1.5ヶ月ほどのワークショップを行うことに変更し、スタッフらの負担を軽減しての実施とした。【人2】は、このシリーズで初めて合唱付き作品に取組み、合同コーラスを編成したが、計画どおりに実施できた。【人3】は、助成金削減のため、レッスン、ゼミは予定どおり実施できたが、当初計画していたシアターイーストでの成果発表の公演を実施できず、リハーサル室に変更して実施した。【人4】は、通年で活動を計画どおり行った。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公1】【公2】は、チケット収入は上回ったため収支改善。【公3】は、日本初演作品ということもあり、わかりやすく届けるために衣裳、小道具などを工夫、舞台費増、チケット販売が伸びず広報宣伝に投入したため、20万円弱の経費増となった。【公4】は、地元新聞販売店との連携が奏功しチケット売上が好調、約100万円の削減を図れた。【公5】はチケット収入が想定より上回った一方、支出については地方公演と按分する経費が多く、コストコントロールがかなりきいたため、結果として対象経費が大幅減となり補助金を充てない収支となった。【公6】は、当初予定とかなり異なる実験的内容の公演となったため、公演回数を大幅に減らし、チケット単価も下げ、券売促進をした。入場料収入は大きく減少した一方、8作品のショウケースというコントロールの難しい制作形態となったためコストを精査。公演回数の減少により人件費も削減できたため、支出も大幅減となり、補助金充当額が170万円の減となった。

【人1】はチケット販売が当初想定より下回ったが、ワークショップ期間を絞ったことなどに伴いランニングコストも削減することができたため、補助金充当金額が70万の減となった。【人2】はチケット売上好調のため、約200万円の削減を図れた。【人3】は、助成金削減のため、事業内容を検討しコンサートを中止した。結果、約800万円の削減となった。【人4】は当初計画していた、新メンバー募集のオーディションをとりやめ、現メンバーでの活動を充実させることに注力したため、オーディション・募集分の経費が削減された。また当初招聘を予定していた講師の都合が合わず、別途招聘した講師は当初の講師より短い日数の来日となったため、その分の経費も削減となり補助金充当額が70万の減となった。

令和5年度は、当館の年間予算が赤字基調だったため、本助成金対象事業についても、予算とマンパワーをにらんで規模の縮小や経費圧縮に励んだ結果、多くの事業で補助金を当初予定の金額までは充当せずに実施できることとなり、結果として補助金を返納することとなってしまった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【公1】は、シンフォニック・ジャズに特化し、ジャズの作・編曲家で世界的に活躍する挟間美帆をプロデューサーに起用。人気ラッパーなどの異ジャンルのアーティストも取り入れ、ジャズとオーケストラ文化の融合と新たな観客を地域に呼び寄せた。【公2】は、指揮者井上道義のマーラーシリーズの集大成として、コロナ渦以降初めての合唱付きの大規模作品を上演し、高い評価を得た。オーケストラは、長く当館と事業提携を結ぶ読売日本交響楽団との事業提携に基づくシリーズであり、取り上げる楽曲を最も得意とするマエストロを招くというコンセプトで続けてきている。今回もそのコンセプトどおり、音楽ファンの期待に応える内容であった。【公3】は、普段上演されないオペラの名作に光を当て日本初演。語りや衣裳、小道具、字幕に工夫を凝らし、観客がわかりやすく鑑賞できるよう、出演者、スタッフ一丸となって取り組み成功に導いた。【公4】は、子供たち目線に立ち、オーケストラや楽器説明も取り入れ、会場全体が親子で楽しめる工夫を凝らし、地元新聞販売店や豊島区とも連携し地域住民の参加を促した。また、助成対象外ではあるが、世界唯一の回転式パイプオルガンを活用した事業も継続しており、毎月1回は必ずパイプオルガンコンサートを低料金（500円と1,000円）で提供し地域に開かれた音楽堂としての役割を果たしている。令和5年度からは、専属オルガニストが交代し、徳岡めぐみとジャン＝フィリップ・メルカールトという若手の二人のオルガニストが新たに就任、レパートリーの幅を広げており、さらにオルガン音楽の創造発信と普及に力を入れている。

【公5】は、野田秀樹芸術監督の戯曲「贖作罪と罰」のミュージカル版であり、日本のオリジナルミュージカル史上に輝く傑作である。芸術監督就任を記念して2009年に上演された作品を、キャストを一新してリメイクしたことにより、劇場の財産のアップデートがなされた。アンサンブルとして起用された東京演劇道場の俳優たちが、質の高いクリエイションを支え、評価を得た。芸術監督と、館が養成するアーティストという劇場の資源が、その活動を熟成させた成果といえる。【人4】【人1】はいずれも多彩な個性の参加者がワークショップを通じて時間をかけて交流することで新たなクリエイションが生み出された。【公6】はメンバーたちの発案によるショウケース公演という挑戦だったが、年代、ジェンダー、国籍、演劇的出自など多様な人々のコラボレーションならではのバラエティ感あふれる内容だった。イラン出身のメンバーの描く戦時下の人々、ジブリッシュという架空の言語で演じられるシェイクスピア、人気小説のエピソードの日替わり上演などの多彩な内容で見る者を魅了した。【人1】の発表パフォーマンスには学者やソーシャルワーカーといった普段舞台とは縁のない人もワークショップから参加し、クリエイションに貢献していた。こうした、人々に開かれた活動の継続こそが、劇場の資源が有機的に活動し、地域を活性化させている。

【人2】は、音楽大学合同オーケストラに加えて、初の合同コーラスを組み、コロナ渦以降途切れていた学生間の交流を復活させ素晴らしい演奏を披露した。【人3】は、管打楽器奏者を育成するアカデミーも10年となり、数多くの若手奏者を輩出してきた。3年間の在籍中には、当館のレジデント・アーティストとしての役割も担い、助成対象外ではあるが、サラダ音楽祭や、TACT フェスティバルなどでの街中コンサート、また、地域の商業施設などでの無料演奏にも出演し、街のアーティストとして人気を博している。また、その指導者たちは、福川伸陽など現在の音楽界を担う講師陣がそろっており、当館職員と共に若手の育成に取り組んでいる。

以上のことにより、地域の文化拠点として優れた創造発信と教育普及の場として機能した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【公 1】は、「挟間が初めてトライした興味深いプログラム」「その挑戦する姿勢こそがジャズの活性化に不可欠な要素であることも、改めて実感させられたステージとなった」（JAZZLOFE9月14日号）このように異ジャンルのゲストを迎え、新たな編曲を生み出し、挑戦を忘れない姿勢は、新たな観客を生み出し地域に活力を生み出した。

【公 3】は、プロの音楽家による日本初演に際し、音楽的には上質なレベルを目指し、一方日本人にわかりにくい神話の世界は演出に工夫を凝らして観客が理解しやすいように届けた。「作品の核心を捉えた。神話の世界を語りながら、人妻の浮気がテーマ。今日的な話題に会場を笑いの渦にしてオффエンバックの風刺の世界が広がった。（途中略）最大の功績は、佐藤美晴の台本・字幕・構成演出にあるだろう。不案内なギリシャ神話の背景を日本語で語り、わかりやすい。辻博之の明快な指揮は特筆に値する」（音楽現代 3月18日）

【公 5】は、「悲劇喜劇」誌の「演劇時評」欄で、萩尾瞳氏が「みずみずしい青春群像」、小田島則子氏が「むずかしい物語が素敵なミュージカルに仕上がっている」と評した。観客のアンケートでは、「ストレートプレイとミュージカルが合体し、言葉と音楽のシャワーを浴びました。」「殺陣、集合ダンス、歌劇、和太鼓、津軽三味線等バリエーションが多く演出が良かった」「最近心が疲れていた私に寄り添ってくれるような作品」と、作品としての総合力の高さと、群舞や殺陣シーンの迫力を評価する声が多かった。また台湾の国立劇場の芸術監督が来日して観劇し、熱心に招こうとしてくれたことも、日本のオリジナルミュージカルとして本作の海外進出の可能性を感じさせた。外部評価委員からは「芸劇が初めてミュージカルを主催した点を評価。スタッフの能力向上も劇場の財産として重要である」「一つの作品を、演出を変えて上演していくことは大切。その意味でも今回の上演の意義は大きかった。」との評価を頂いた。

【公 6】は、観客からは、「やりたいことをつきつめられていてとても楽しかった」「おそらく演劇でしか実現できない演出に、本当に来てよかったと思いました。」「今まで見たことのない演劇を見ました」「いろいろなスタイルのものがあって楽しめたし、自由でいいんだなと思った」「この中のどれかが今後本公演として上演される日を楽しみにしています」との評価。外部評価委員は「メンバーから募った企画をショーケース形式で上演することは参加者の自発性、責任感を促す点で理想的な方法」との評価。

【人 1】は、外部評価委員からは「新たな表現の開拓を社会的共生とつなげているところがきわめて今日的で重要な視点。」「多彩な参加者と多彩な嗜好で、新たなダンス表現となっている」との評価をいただいた。

人材養成事業については、ダンス、音楽、演劇分野の若手が当館に集まり、公演を行うだけではなく、当館に定期的に、ある事業では長期間にわたり当館に集い研鑽を積んでいる。彼らの活動は館内だけではなく、【人 3】では、街角でのライブを行ったり、【人 4】では劇場内での公演だけではなく、パブリックスペースであるローワー広場でのパフォーマンスを行ったり、地域の人々に無料で見てもらえるような工夫をしている。若いアーティストの卵たちが、この地域に集い活動することで、「地域の広場」としての役割を果たすと共に、地域の文化芸術の発展に寄与することができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当該助成事業を中核事業に位置づけその持続的実施を可能にするよう、以下の観点から基盤強化に取り組んだ。

○経営基盤を強化するために、設置者の負担金に加えて、施設利用料収入の安定化と外部資金導入に注力。

- ・施設貸出収入（当館及び水天宮ピット）の安定的確保 561,064,430 円（対前年+6,367,950 円）
- ・公的資金の獲得実績 281,544,657 円（対前年▲128,977,108 円）
- ・民間助成金の獲得実績 29,978,199 円（対前年+380,199 円）
- ・企業等からの協賛金・寄付金の獲得実績 43,823,000 円（対前年+12,748,752 円）

○職員が能力を発揮できる環境を整えるため、以下の取組を行った。

- ・財団全体で新人材育成方針を策定、舞台制作、舞台技術という新しい専門職種をつくり R6 年度から運用開始。
- ・常勤契約職員の固有職員化（雇用転換数）を活性化させている。その実績は以下のとおりである。

3 名が固有職員に転換した。（対前年+1 名）

- ・他団体研修・所属財団研修参加実績（延べ人数） 33 名（対前年▲8 名）
- ・研修の充実：財団の研修制度、海外派遣研修などを活用している。

情報セキュリティ研修、文書研修、契約事務研修、コンプライアンス研修、実践力向上（論文など）研修を毎年実施、R5 は、クリウエル研修（芸劇全館研修）実施

・国内外の文化施設等への派遣研修制度を活用し、当館の人材育成担当職員が、R5 年度に 3 か月間ドイツの劇場で多文化共生に関する教育プログラムについて研修を行った。

- ・外部講師の引き受け件数…管理職、係長級に限らず、主任級、主事級職員も外部講師を務めている。教えることで自己の業務やキャリアを振り返りまとめ、専門人材としての意識を高めさせている。

R5：40 件（大学 11 件、高校 22 件、その他 7 件）（対前年+3 件）

○各ジャンルの若手アーティスト育成のため、以下の取組を行った。

- ・音楽：芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド

プロフェッショナル演奏者の輩出数 1 名（東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団）

- ・演劇：東京演劇道場

道場から大中劇場クラスへの出演者輩出数 全体としては 31 作に出演。人数としては 25 名が出演。

- ・制作人材の育成：東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修

公共劇場や芸術団体への就職者数：2 名

就職先：横浜市芸術文化振興財団みなとみらいホール、認定 NPO 法人鳥の劇場

○各種ネットワークを構築

コロナ禍において業界の危機的状況に対応するために結成されたネットワークである、緊急事態舞台芸術ネットワークとクラシック音楽公演運営推進協議会に参画し、業界のガイドライン策定に協力、現在も活動を続けている。また、全国公立文化施設協会に加盟し、東京都公立文化施設協議会の会長館として、東京都内の加盟施設約 60 館との情報交換、連携に取り組んでいる。R5 には、全公文の経営環境部会の活動にも参画し、全国の中小規模館の人材問題について調査、全公文の大会で発表を行った。また、音楽系大学、演劇系大学と連携した事業の実施も引き続き行っている。国際的には、世界約 60 か国 500 を超える組織が加盟する国際ホール組織 ISPA に加盟。また、前述のアジアの若手プロデューサー育成のための ACPG（アジア・コネクション・プロデューサーズ・クリエーション）を組織、参加し、韓国、台湾、シンガポールの劇場とのネットワークを構築している。また、R5 に提携協定を締結したフィルハーモニー・ド・パリと教育プログラムでの交流を行った。そのほか、ウィーン芸術週間や新芸術監督（令和 8 年度就任）のネットワークを活用した国際交流をスタートし始めた。

以上のとおり、経営基盤を整え、マネジメント人材、若手アーティストを育成し、各種ネットワークを構築することで、今後も組織活動が持続するよう取り組んだ。